

泌尿器科レジデントマニュアル

郡 健二郎 監修

佐々木昌一, 戸澤啓一, 丸山哲史 編

＜書評者＞ 大家基嗣 (慶應義塾大学教授・泌尿器科)

本書の監修者である郡 健二郎教授(名古屋市立大学大学院腎・泌尿器科学分野)とは毎月『臨床泌尿器科』の編集会議で一緒に過ごしていただいている。論文の審査において先生は一貫して明解な論理と広い視野で論文の意義を判断し、どうしたら内容がよりよく読者に伝わるかを常に考えておられる。日常臨床での先生の緻密さと教室員に対する高い精神性を伴った教育を私は先生のお言葉から常日頃感じ取っている。

レジデントマニュアルは、とすれば各種ガイドラインから拝借した標準的治療の羅列となる可能性がある。それでも、読者は気軽に参照して納得し、当初の目的は達成されるからそれで十分ではあるが、できれば理解した知識が血となり肉となってほしい。本書では要点がきちんと整理され、実践的であると同時に、執筆者の経験を根拠にした考え方やこだわりが垣間見え、レジデントマニュアルとしての範疇を超えたものになっている。あたかも郡教授を指揮者

とする1つの交響楽が奏でられているかのようである。「序」で「医療をするにあたって大切なことは独自の考えをしっかりと持つことだと思う」といみじくも述べられているように、私達は観察力、思考力、洞察力に磨きをかけて医師として成長していかねばならない。言葉を変え、本書の帯に書かれているように、泌尿器科の星をめざすということである。輝くからこそ「星」であり、職業を通して社会に貢献し、キラリと光る臨床の能力は周囲から見るとまさに輝く星であろう。

診療で困ったときに助けてくれるのがマニュアルである。泌尿器科医としての第一歩を踏み出したレジデント諸君にとって、わからないことは山ほどある。しかし、外来と病棟管理では活躍を大いに期待されている。外来での診察ではまず診断をつけなければならぬ。症候から系統的に手順を示してくれる本書の構成はありがたい。病棟での周術期管理はレジデントの仕事である。代表的な手術

における管理の要点が示されているので活用していただきたい。さらに、レジデントの病棟管理での腕の見せ所は、合併症を持つ患者に問題なく手術を受けさせて順調な経過で退院させることと、予期せぬ合併症が生じたときの迅速かつ適切な対応であろう。前者での例として、ステロイド使用患者、抗凝固薬使用患者、糖尿病患者の管理が示されている。後者の例としては呼吸器合併症、消化器合併症としてまとめて記載されている。さらに、本書の特徴として付録が充実していることが挙げられる。国際前立腺症状スコアから始まり、死亡診断書の書き方と関連法規に至るまで、26項目に及ぶ。私は本書を手元に置くことに決めた。

こうして本書を紐解いていくと、改めて泌尿器科の広さと深さを認識した。ポケットサイズで常に携帯が可能で使いやすい。小さくても内容が豊富で叡智が結集されている本書は、まさにレジデントマニュアルの「星」であろう。

●B6 変 頁 408 2011 年
定価 4,830 円
(本体 4,600 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-01226-3]
医学書院 刊